

平成28年度 石巻市
地域づくりコーディネーター事業
事業実施報告

石巻市湊地区における 「住民互助型支援」の創出への取組み

2017年3月
特定非営利活動法人ぱんぷきんふれあい会

() 住民互助型支援とは

本資料で言う「住民互助型支援」とは、行政や社会福祉協議会、地域包括支援センター、NPO法人等が住民の自助・互助意識を醸成し、具体的な活動を生み出し、その活動に伴走をしていく支援のあり方をイメージしている。

はじめに

2011年3月11日に発生した東日本大震災から6年が経過しました。市内の各地域で仮設住宅から復興公営住宅への移住が進み、復興は着実に進んでいます。

しかしながら、仮設住宅で構築された地域コミュニティの再崩壊とそれに伴う住民の孤立、高齢被災者におけるリロケーションダメージなど、住まいの変化に伴う新たな課題・支援ニーズが発生しています。

こうした問題に関しては、交流支援やちょっとした困りごとに対応する生活支援、見守り・安否確認などといった、住民の互助活動がその軽減に大きく役立つものと考えられます。しかしながら、地域においては互助活動の必要性が認識されながらも、主体的に互助活動を行う担い手はそれほど多くは見られないのが現状です。

上記の状況を踏まえ、当法人は「平成28年度石巻市地域づくりコーディネート事業」の補助金を活用し、住民互助活動の担い手の掘り起こしと育成、組織化、および地域における「顔の見える関係」の構築を目的として、各種事業を実施いたしました。

本書は、同補助金を活用して石巻市「湊地区復興住宅」および同周辺地域において実施した、互助活動の担い手の掘り起こし活動などの成果を取りまとめたものです。本書の内容が、市内各地における住民互助型のコミュニティ形成に向けた取組みのヒントになり、誰もが住みやすい地域づくりのお役に立つものとなりましたら幸いです。

最後になりましたが、各種事業の運営にご協力いただいた皆様、各種事業にご参加いただいた地域住民や企業の皆様、また、本事業を遂行するために様々な助言をくださった皆様に厚く御礼申し上げます。

2017年3月

特定非営利活動法人ぱんぷきんふれあい会 代表理事

渡邊 智仁

本書の目次

. 事業の背景と目的

1. 事業の背景
2. 事業の目的

. 実施事業の概要

1. 事業全体の流れ
2. 住民主体型活動の参加者
3. 事業実施内容

. 事業に対する評価

1. 本事業参加者向けアンケート結果
2. 地域課題解決事業の企画運営の実践 参加者への聴き取り調査結果
3. 地域課題解決事業の企画運営の実践 事務局職員への聴き取り調査結果

. 事業の総括と今後に向けた提言

1. 本事業の総括
2. 当法人における今後の取組み

事業の背景と目的

- 本章では、本事業における問題意識や事業の目的を記載した。
- 併せて、事業開始当初に設定した数値目標についても言及している。

1. 事業の背景

(1) 復興公営住宅への移住に伴い懸念される課題

- 2011年3月11日に発生した東日本大震災から6年が経過し、被災者の支援ニーズは、緊急時に対応する支援から長期的に生活を支えるものへと質的に変化している。
- また、石巻市湊地区においては仮設住宅から復興公営住宅への移住が進み、住まいの変化に伴う新たな課題（リロケーションダメージによる認知症の悪化、集合住宅での生活に不慣れなことによる近隣トラブルなど）の発生が懸念される。
- さらに、仮設住宅から復興公営住宅への移住により、仮設住宅において形成されたコミュニティから離れることで、仮設住宅入居直後と同様に、再び要援護者等の社会的孤立や生活不活発発病の発生のリスクが高まることが懸念される。

(2) 移住後に向けた必要な支援

- こうした現状に対し、サポート拠点や地域包括支援センター等には、移住に伴う課題や支援ニーズの変化に関する現状を把握し、直接的な支援を行っていくことが求められる。
- 加えて、恒久住宅として長期に渡る生活が続く中で、住民が外部からの支援に依存してしまうことなく、互助力を高め、住民主体でコミュニティの再生を進めていく視点も重要となる。
- しかしながら、互助力の強化と住民のエンパワーメントに重点を置いた支援活動は、行政関係機関も含めてそれほど行われていない。

2. 事業の目的

(1) 本事業の目的

- ・ 本事業は、石巻市の湊地区の「復興公営住宅」入居者及び同住宅周辺地域の住民を対象に、新たな地域を支える互助活動の担い手の掘り起こしと育成、組織化を図る。
- ・ 当該担い手人材が主導して同地区の復興公営住宅入居者と周辺地域住民との交流イベントなどの事業を試行的に行い、今後の住民主体の活動の素地を形成するとともに住民間の「顔の見える関係」の構築を進める。

(2) 具体的な数値目標

- ・ 復興公営住宅入居者や同住宅周辺地域の住民等の中から、住民主体によるコミュニティ形成活動の担い手を掘り起こし、育成する（住民互助の中核人材の掘り起こし・育成：10名程度を目標とする）。
- ・ 担い手の組織化を図り、当該担い手による互助活動の企画立案と試行を行う（住民主体による地域課題解決のための事業の実施：1回以上実施する）。
- ・ 昨年度の本事業で掘り起こしを行った人材による互助活動を、本年度も継続して行う。

目標項目	内容	数値目標
住民互助の中核人材の掘り起こし・育成	本事業におけるセミナー等を通じた住民互助型の交流イベント等の企画運営に携わる人材の数	10人
住民主体の地域課題解決に向けた事業実施	上記の人材を中心として実施する地域課題解決のためのイベント等の開催回数	1回以上
昨年度掘り起こしを行った人材による活動	昨年度の本事業で掘り起こした人材による住民互助の活動を継続して行う。	継続

事業実施概要

- 本章では、事業実施概要として、事業全体の流れ（フロー図）を記載した。
- また、本事業において実施した「地域住民主体の互助活動に向けた意識啓発セミナー」「互助活動の具体的な企画・運営手法に関する実践講座」「地域課題解決事業の企画運営の実践」「昨年度事業での掘り起こし・育成人材による継続活動」の概要を整理した。

1. 事業全体の流れ

本事業では、事業目的の達成に向けて、「地域住民主体の互助活動に向けた意識啓発セミナー」「互助活動の具体的な企画・運営手法に関する実践講座」「地域課題解決事業の企画運営の実践」という大きく3つの事業を実施した。また、として、昨年度事業で掘り起こし・育成を行った人材による継続的な活動についても、フォローを行った。

昨年度事業で掘り起こした人材による継続的活動

当法人によるイベント等の企画・運営の支援
自主企画イベントの開催

当法人企画運営の交流イベント(倉語・コッサート茶話会等)

住民向け事業の「お手本」提示

地域住民主体の互助活動に向けた意識啓発セミナー

- 【事業内容】：互助活動の担い手となることに興味・関心のある復興公営住宅入居者および周辺地域住民の掘り起こしを行う。
- 【実施時期】：2016年5月～2016年9月（全国介護事業者協議会 企画室長 柴垣竹生氏による講演）
- 【事業対象】：湊町地域住民、近隣住民、復興住宅入居者

互助活動の具体的な企画・運営手法に関する実践講座

- 【事業内容】：互助活動の中核人材を育成するため、生活課題の把握手法や活動企画の立案などについて実践的な講義を行う。
- 【実施時期】：2016年9月～2016年11月（合同会社「介護の未来」代表 阿部充宏氏による講演）
- 【事業対象】： のセミナー参加者のうち希望する方ほか

地域課題解決事業の企画運営の実践

- 【事業内容】：実施計画 の受講者が、住民互助力を高めるための活動を実際に企画・運営する。
- 【実施時期】：2016年11月～2017年3月（バッジ作成決定から配布）
- 【事業対象】： のセミナー参加者のうち希望する方

事業成果の取りまとめ

- 事業に参加した地域住民に対するアンケート調査結果の取りまとめ
- 住民互助型支援の創出に向けた課題と対応策の整理
- 住民互助型支援の創出に向けた提言、来年度以降の取組みの方向性検討

2. 事業実施内容(1)

本事業で実施した「地域住民主体の互助活動に向けた意識啓発セミナー」「互助活動の具体的な企画・運営手法に関する実践講座」「地域課題解決事業の企画運営の実践」の実施概要は、以下の通りである。

地域住民主体の互助活動に向けた意識啓発セミナー

開催日	場所	内容	参加人数
2016年9月19日	石巻市吉野町 on the corner	<ul style="list-style-type: none"> 一般社団法人『民間事業者の質を高める』全国介護事業者協議会（略称：民介協）企画室長の柴垣竹生氏を講師として、住民主体の地域づくりに関するセミナーを開催。 	39名

互助活動の具体的な企画・運営手法に関する実践講座

開催日	場所	内容	参加人数
2016年11月10日	石巻市吉野町 on the corner	<ul style="list-style-type: none"> 介護の未来代表 阿部充宏氏を講師として、「皆で考えるみなど」セミナーを開催。 「自分で考える・皆で考える そして行動しよう」と題するグループワークを行い、「人に優しい湊」という活動のコンセプトを決定。 また、地域見守り活動に向けた住民への呼びかけと協力住民が身に付ける缶バッジを作成。 	22名

地域課題解決事業の企画運営の実践

開催日	場所	内容	参加人数
2016年11月～3月	石巻市湊地区	<ul style="list-style-type: none"> 缶バッジのデザインを住民から募集し、12月に決定。 12月より の講座参加者が地域見守り活動への協力を住民へ呼びかけ、協力者に缶バッジを配布。（2017年3月末時点でのバッチ配布数164個） 	22名

2. 事業実施内容(2)

昨年度の事業で掘り起こし・育成を行った中核人材が主体となって企画・運営を行った事業は、以下の通りである。なお、昨年度の中核人材については、前スライド記載の ～ の事業の運営にも協力をいただいている。

開催日	活動内容	場所	参加者数
7月7日・13日・22日	□ 石巻川開き祭飾りつけ作成	石巻市吉野町 on the corner	10名、10名、7名
11月30日	□ 健康教室「ふまねっと教室」()	石巻市吉野町 on the corner	13名
12月14日	□ 健康教室「ふまねっと教室」	石巻市吉野町 on the corner	15名
3月3日	□ 健康教室「ふまねっと教室」	鹿妻南コミュニティハウス	15名

「ふまねっと」とは、北海道教育大学釧路校の北澤一利教授が開発した、認知症予防と介護予防に有効なデュアルタスク運動のことである。

2. 事業実施内容(活動風景： 意識啓発セミナー)



- 意識啓発セミナーにおいては、全国介護事業者協会企画室長の柴垣竹生氏を講師として招聘し、「地域の高齢者は地域で支える！～地域住民と共に創る“高齢者の生活支援”」と題する講演会を開催した。
- 当日は39名が参加し、高齢者等の地域生活を支える住民互助型の生活支援の重要性について学んだ。

2. 事業実施内容(活動風景： 実践講座)



- 実践講座では、神奈川県にある合同会社「介護の未来」代表でケアマネジャーでもある阿部充宏氏を講師として招聘し、地域課題とその解決策に関するグループワーク「皆で考えるみなと」を実施した。
- 顔の見える関係づくりの重要性、互助活動への参加のハードルなどが課題として挙げられ、(認知症サポーターのオレンジリングをイメージし)見守り活動への協力表明をしてくれた住民へカンバッジを配布する取組みを進めることになった。

2. 事業実施内容(活動風景： 企画運営の実践)



- 地域住民から缶バッジのデザインを募集し、12月の会議で最終的なデザインを決定した。
- 個々の互助人材が友人・知人などへ活動への協力を依頼し、本年3月末時点で164名の方にバッジを配布した。

2. 事業実施内容(活動風景： 昨年度人材による継続活動)



- 吉野町のon the cornerに立ち寄った住民へ石巻川開き祭のための飾り付けの作成を依頼し、共同で作業を実施した。
- また、「ふまねっと」運動を活用した健康教室を開催した。
- 飾り付けの作成（3日間）と健康教室（3回）にのべ70名の住民に参加をいただいた。

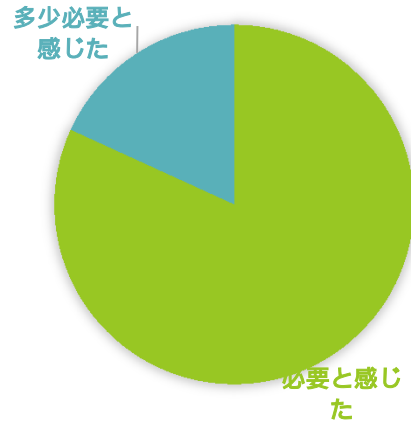
事業に対する評価

- 本章では、本事業に参画をいただいた地域住民の方々や事業運営に従事した事務局スタッフによる事業に対する評価、所感を記載した。
- 「地域住民主体の互助活動に向けた意識啓発セミナー」および「互助活動の具体的な企画・運営手法に関する実践講座」については、セミナー終了後に実施した参加者アンケートの結果を掲載した。
- また、本事業に参画いただいたボランティアメンバーや事務局スタッフへのヒアリング結果を記載した。

1. 本事業におけるセミナー等参加者アンケート結果

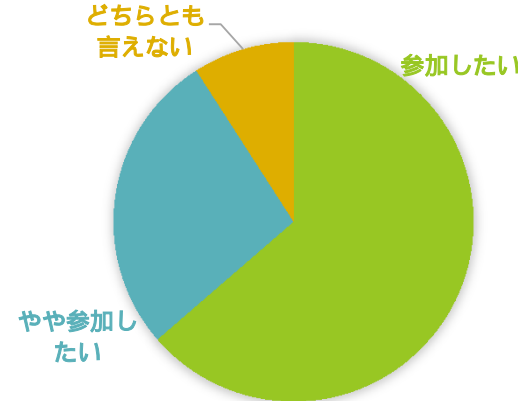
(1) 「地域住民主体の互助活動に向けた意識啓発セミナー」参加者からの回答 (n=22)

互助活動の必要性理解



意識啓発セミナー受講後の「互助活動の必要性」に関する設問への回答を見ると、全回答者22名中18名が「必要と感じた」、4名が「多少必要と感じた」と回答していた。

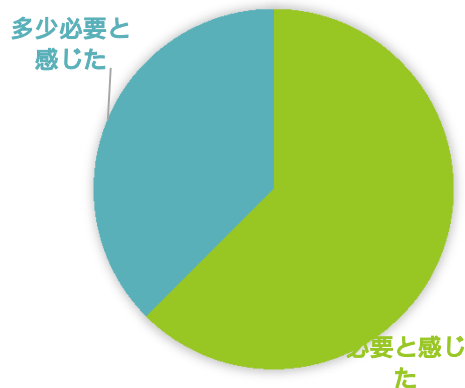
互助活動への参画意向



セミナー受講者に対し、今後の住民間での互助活動への参加意向についてたずねたところ、全回答者22名中14名が「参加したい」、また、6名が「やや参加したい」と回答していた。

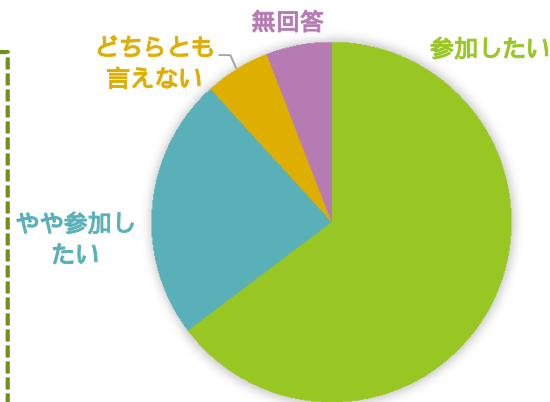
(2) 「互助活動の具体的な企画・運営手法に関する実践講座」参加者からの回答 (n=17)

互助活動への必要性理解



実践講座の受講者に対して「互助活動の必要性」に対する認識をたずねたところ、全回答者17名中15名が、「必要と感じた」、2名が「多少感じた」と回答していた。

互助活動への参画意向



実践講座の受講者に対し、今後の住民間での互助活動への参加意向についてたずねたところ、全17名中11名が「参加したい」と回答し、4名が「やや参加したい」と回答していた。

2. 参加住民に対する聴き取り調査結果

- 今まで互助活動が必要と思いながら、実際の行動には至らなかった。今回作成したバッジを手にしてみると、見守り活動への協力者を募る声掛けをやってみようと思う。
- 一人で考えるのではなく、みんなと一緒に考えることが大事だと思った。
- セミナー等を開催しても、目の前の復興住宅から参加する方は数名。声掛けや周知に工夫が必要ではないか。
- 地域で孤立している方がもっとオンザコーナーに出てくるような仕掛けを考えるべきではないか。
- 地域のイベントや交流拠点に出てくるきっかけをどうやって作ったらいいのか、ぱんぷきんふれあい会に考えていただけるとよい。
- ただし、自分から出たいと思う事も大切なので、そう思った方が出てきた時に迎え入れる体制を整えたい。
- 年配になると楽しい事をやりたいと思う。講習やセミナーよりは楽しくて面白くて出ていきたくなるような仕掛け・工夫が必要。
- 趣味の活動は好き嫌いがある。そのため、色々なものから参加する活動が選べるということも必要。
- 自分で互助活動を企画をするという事に関しては、まだまだ抵抗がある。
- ふまねっとサポーターとしての活動は、人との出会いがあって楽しい。震災で色々な事があったが、この活動は自分の健康づくりにも役立ち、人の役にも立っていると感じられる。自信、生きがいにもつながっていると感じている。
- 震災後に家庭環境等が変化するケースが多くなっている。家族間のトラブル等を気軽に話せる場所、相談を受けつける場所が今後必要になってくる。自分の生活圈と少し離れた場所(近所の人がおらず、利害関係がない場所)で、お茶のみの感覚で相談できる場所があればいい。

3. 事務局職員への聴き取り調査結果

- ボランティア活動者の中には、生きがいを感じて、どんどん参加をしてくれたり、自分自身が若返っている（元気になっている）と感じてくれている方が多くいる。
- 一方で、イベント等を手伝ってくれている方でも、改めて互助活動の「担い手」になりませんかという話をした途端に消極的になる。今までと同じ事をしてくれれば良いという話をしても、心理的に大きな壁があるようだ。
- ボランティア同士にも相性がある。人間関係の調整の難しさも感じている。
- オンザコーナーは地域の中で問題を抱えた方が相談に来る場所として認知されつつある。今後は、相談者を地域包括支援センターや社協、ケアマネ等へ適切につなぐ役割も重要になってくると考える。
- 既存の活動では男性参加者が増えなかったため、「湊男塾」というものを企画をした。男性が集まる場所を作るのは難しいが、少しずつ出てきてくれる方も増えてきている。
- 男性が一人でも立ち寄れるような仕掛けが必要であると思う。
- 落語会のような楽しめる活動には、多くの人に集まってもらえるようになった。一方、講演会等には参加者がなかなか集まらない。「地域の事は自分達でやっていく」といったように意識を変える啓発活動が、今後もっと必要になってくるのではないか。
- ボランティア活動を継続している方について、今年度はそれぞれ自分の得意な分野でのお手伝いをいただいた。それぞれ無理なく活躍をしていただいているのは良い事だと思う。今後は情報交換や意見交換の場を開催し、個々に活動するボランティアリーダー同士の交流が生まれれば、地域のネットワークを強化できるのではと思う。
- 事務局があまり互助活動の企画・運営に関与しすぎると、住民主体の活動にはなりにくい。手を出しすぎず、引きすぎずというのが理想的な関わり方ではないか。

事業の総括と今後へ向けた提言

- 本章では、事業を通じて得られた気づきや発見を踏まえ、「住民互助型支援」を行う上で必要な取組みついて、いくつかの提言を整理した。

1. 本事業の総括

- 本事業においては、当初に住民主体の活動をリードしていく人材の育成・掘り起こし（10名程度の掘り起こし・育成）、同人材の企画・運営による地域課題解決のための事業の開催（1回以上）、昨年度事業において掘り起こし・育成を行った人材による活動の継続を当初の目標として設定した。
- 事業の結果、「互助活動の具体的な企画・運営手法に関する実践講座」においては22名の参加があり、当該参加者による地域見守り活動への協力に向けた住民への声掛けと協力住民に配布する缶バッジの製作・配布が行われた。
- これらの参加者からは、今後も地域における活動に関わっていきたいとの意向が示された。
- また、昨年度に掘り起こし・育成を行った人材による交流イベントも2017年3月までに4回開催され、来年度以降も継続して取組みを実施していく動きが見られる。
- 上記の点を踏まえれば、本事業の当初目標はおおむね達成できたものと考えられる。

目標項目	内容	実施結果
住民互助の中核人材の掘り起こし・育成	本事業におけるセミナー等を通じた住民互助型の交流イベント等の企画運営に携わる人材の数	実践講座参加者22名
住民主体の地域課題解決に向けた事業実施	上記の人材を中心として実施する地域課題解決のためのイベント等の開催回数	1回（地域見守り活動への協力に向けた住民への声かけ、缶バッジ製作・配布）
昨年度掘り起こしを行った人材による活動	昨年度の本事業で掘り起こした人材による住民互助の活動を継続して行う。	継続（4回実施）

2. 当法人における今後の取組み

■住民互助活動の継続

- 昨年度および本年度の事業で掘り起こし・育成を行った人材による住民互助型の事業を継続することで、当該人材の互助活動への意識や知識のさらなる向上を図る。
- また、これまでと同様の取組みを継続することで、新たに互助活動のリーダーとなる人材の掘り起こし・育成を進め、当該人材の数の増大を図る。
- 加えて、湊地区のみならずその周辺地区へ活動エリアを拡大する。

■より多くの住民へ互助活動の重要性を伝えるための仕組みづくり

- 本年度の互助活動に関する啓発セミナーや実践講座については、その参加者が中高年齢層の女性が中心であった。また、その他の地域イベントについても、女性高齢者の参加が目立つ結果となった。
- 今後は、子育て世代などのより若い住民、男性の中高齢者など多様な住民に当法人の取組みを認知してもらうことを目的とし、子育て支援を行うNPO法人との連携、（地域交流のきっかけとしての）様々な男性向けの趣味の講座の開催などを通じ、より多くの住民と接点を構築するための工夫を図る。

■「ライトなボランティア活動人材」の活動機会の充実

- 啓発セミナー等への参加や互助活動のリーダーとなることに躊躇する住民が多いことを踏まえ、「ちょっとした手伝い」や「楽しみながら参加できる互助活動」の在り方を検討し、互助人材の裾野の拡大を図る。

- 最後までご覧いただき、ありがとうございました。
- 内容についてご不明な点等がございましたら、下記までお問合せください。
- 本書のPDFファイルにつきましては、当法人ホームページからダウンロードをいただけます。

特定非営利活動法人ばんぷきんふれあい会（代表理事：渡邊 智仁）
〒986-0865 宮城県石巻市丸井戸三丁目3番8号
TEL：0225-96-7845 / FAX：0225-93-4871
電子メールアドレス：t-pump@pumpkin-kaigo.jp
ホームページURL：<https://pumpkinfureaikai.jimdo.com/>
担当：渡邊、菅野

